

平成26年 12月 1日  
在ポルトガル日本国大使館

## 東博史大使からのメッセージ

晩秋の候、今年は雨の多い日が続きましたが、皆様におかれましては、御健勝にてご活躍のことと存じます。

今月は、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」の一環として、「第2回ポルトガル日本語弁論大会の開催」と「ひょうご震災記念21世紀研究機構関係者のポルトガル訪問」について御紹介したく存じます。

### 第2回ポルトガル日本語弁論大会の開催

11月2日(日)、ポルト市立アルメイダ・ガレット図書館において、ポルトガル日本語教師連絡会議(日本語弁論大会実行委員会)主催による、第2回ポルトガル日本語弁論大会が開催されました。私も、審査委員長として参加しました。

安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」において、「各々の国で日本語とポルトガル語の教育を奨励する。昨年ポルトガルで開催された第一回日本語スピーチコンテストを歓迎する」とあります。今次、弁論大会は、安倍総理のポルトガル訪問のフォローアップの意味でも重要な意義を有するものです。

弁論大会では初級7名、上級7名、特別クラス2名の計16名が日本語で弁論を行いました。参加者の皆さんは、日本人との交流を通じ体験した異文化理解の難しさと素晴らしさ、日本語を学習する上で感じる難しさといった、それぞれの視点で各参加者と日本との関係等を踏まえた弁論を発表しました。

今回スピーチした方のほとんどは一回も訪日したことがない方々でしたが、上級クラスの方々はほぼ全員が原稿を持たず暗唱でスピーチされたことは嬉しい驚きでした。特に、「谷崎潤一郎」の「陰翳礼讃」を取り上げ、日本の建築における「光と陰」の効果等日本文化の特徴に言及したスピーチには感心しました。同スピーチは、日本語の表現能力等総合点では惜しくも「受賞」は逃したのですが、今回の弁論大会の「質の高さ」やポルトガル人の日本文化に対する深い理解を象徴するものとして嬉しく思いました。

私は、昨年の第1回大会にも出席したのですが、今次大会では、昨年の大会よりも全体的な弁論レベルが一層向上していることに感銘を受けました。また、当国にこれほど多くの日本語学習者がいることを嬉しく思いました。これも日本語学習者の努力はもちろんですが、ポルトガル日本語教師連絡会議の日本語の先生方のご尽力の賜物であると感じました。更に、昨年の第1回弁論大会及び今次弁論大会の開催が、日本語学習者の学習意欲の向上につながっていると考えられ、今後もこの弁論大会を継続していくことの重要性を再認識しました。参加者の皆さんが引き続き

日本語学習に励み、日本とポルトガルの交流の架け橋となられることを確信しております。

本大会を主催した日本語弁論大会実行委員会の皆様のご尽力、並びにポルト市をはじめとする共催団体のご協力に深く感謝申し上げます。また、当国における日本語教育の更なる発展に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます。

## ひょうご震災記念21世紀研究機構関係者のポルトガル訪問

11月14日より23日まで公益財団法人「ひょうご震災記念21世紀機構」の研究員の方2名がポルトガルを訪問されました。

明2015年は、「阪神・淡路大震災20周年」、「リスボン大地震260周年」に当たります。ひょうご震災記念21世紀機構では、この機会に、「リスボン大地震」の発生状況や震災直後のポンバル侯爵の対応、その後の復興等について学び、その研究成果を今後日本で発生する可能性が高い「首都直下大地震」や「南海トラフ地震」に生かすことを目的として来訪されました。リスボン市側も「リスボン大地震260周年」の機会に、明年11月には大規模な記念行事を開催するとともに、明年1年間、今後発生する可能性のある地震等に備えるため、「防災教育・訓練」等に力を入れるとのことで、「防災大国」である我が国からの協力を求めて来ていましたので、双方のニーズが合致する訪問となりました。安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同声明」でも、「2015年3月に日本で開催される第3回国連防災世界会議の成功のために協力する」と謳われており、両国間の「防災」分野での協力が想定されているため、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」の観点からも時宜を得たものとなりました。私も、ひょうご震災記念21世紀機構の研究員の方とともに、内務省を訪問し、明年、仙台で開催される「第3回国連防災世界会議」へのポルトガルからの閣僚等ハイレベルの出席をお願いし、前向きな反応を得ました。また、この国連防災世界会議にポルトガルから出席する方に、ひょうご震災記念21世紀機構を訪問頂くことについても了解を得ました。

また、この機会にリスボン市庁舎において、「ワークショップ:リスボン地震とより耐性のある都市のための貢献」が開催され、リスボン市、治安・消防部門、土木国家研究室、リスボン工科大学建築学科教授、地震学者、歴史学者、国民防災機関幹部等が出席し、リスボン大地震の経験や、阪神・淡路大震災の経験、日本での地震対策等について、意見・情報交換が行われました。

今次訪問により、私も「リスボン大地震」の発生状況や震災直後のポンバル侯爵の迅速な対応、その後の復興等について改めて認識し我が国としても学ぶべきものがあると思いました。また、今後日本で発生する可能性が高い「首都直下大地震」や「南海トラフ地震」に備えるため、我が国で実施されている「防災対策」、「法整備」等が種々の事態に対処できるよう準備されており、この「防災対策」はポルトガルにとっても極めて有益なものであると感じました。このため、特に明年は、「防災対策」をはじめ「防災分野」で両国間の協力関係の強化を図りたいと考えています。また、我が国は、本年、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)のオブザーバー国となったこともあり、将来的には、CPLP諸国において両国が「防災分野」で協力することについて、ポルトガル側からも好意的な反応があつたことを御報告いたします。

## フラスキーリョ AICEP(ポルトガル投資貿易振興庁)長官の訪日

11月19日より22日まで予定されていたポルトガル副首相の訪日が諸般の事情により延期になりましたが、フラスキーリョ AICEP 長官は、約20社のポルトガル企業を伴って予定通り訪日しました。同訪日の概要、成果等については、次号で御紹介致したく存じます。

多忙な師走となり、天候不順な日々が続いておりますので、皆様におかれましては御自愛のうえ御活躍頂きますようお願い申し上げます。